

令和8年度教育課程研究集会

小学校 生活科部会

令和8年7月22日

徳島県教育委員会

本日の日程

- 9:30～10:50 部会Ⅰ開会、日程説明等
講演「学習指導要領改訂に向けて」
- 10:50～11:00 休憩
- 11:00～11:50 部会Ⅱ（説明、協議等）
生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
- 11:50～12:00 リフレクション、閉会

生活科の

イントロダクション

生活科の授業で、
あなたが大切にしていることは？

お隣の方と、お話してください。



生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

さっそくですが、課題について

徳島県小・中学校教育課程研究集会

【部会Ⅱにおける協議題について】

課 題	
当日の協議題	生成 AI を活用した魅力ある授業づくり ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

課題は事前提出の必要はありません。

部会Ⅱでは、各教科の特性に応じた生成 AI の活用に焦点を当て、協
す。活発な情報交換とするため、以下の点について、事前に整理した
ださい。

- 1 事前整理の内容
 - ① AI を活用した授業実践例・アイデア
各教科の特性に応じた AI 活用の実践事例、または今後の活用
アイデア
 - ② 活用に向けた課題や気になること
これまでの実践で気付いた課題や、今後の活用を進める上での疑問・
念している点
- 2 当日の持参物・連絡事項
 - ・ 説明資料の持参について（任意）
協議の際、説明の助けとなる資料がある場合は、必要に応じて御持参く
さい。その場合、著作権等への留意に加え、AI 作成時のハルシネーション
（事実誤認）に伴う事実確認を確実に行い、事前に管理職員の承認を得て
ださい。
 - ・ PC の持ち込みと Wi-Fi について
教員用端末（所属のセキュリティポリシーを遵守す
さい。会場内では研修用の Wi-Fi 環境を利用できま

生活科の特性に応じたAI活用

- ①AI活用の実践事例・アイデア
- ②AI活用に向けた課題や気になること

お隣の方と、お話しください

低学年の発達段階では？

生活科の特性を考えると？



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。
その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教職員が校務で
利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

児童生徒が
学習活動で
利活用する場面



- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会等が
押さえておくべき
ポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる必要がある。一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

共通して押さえて
おくべきポイント



- 安全性を考慮した適正利用
- 公平性の確保
- 情報セキュリティの確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任
- 個人情報・プライバシー
- 著作権の保護

に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要



参考資料編

- 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等

生活、総合的な学習・探究の時間WG

取りまとめ（案） ①生活科

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

(2) 現状の課題

○低学年の児童は、**具体的な活動を通して思考**する

○AI時代だからこそ、

- ・対象との関わりをリアルに認識すること
- ・発達に相応しい表現活動によって対象に認識し、自らの成長等を実感することが、これまで以上に重要

(2) 現状の課題

ア. AI時代に求められる生活科の在り方に関する課題

<a.生活科の学びの本質を踏まえた指導の重要性>

- 小学校低学年の児童は、**具体的な活動を通して思考**するという発達上の特徴がある。児童は試行錯誤したり繰り返したりして、対象に何度も関わりながら、身体全体で学ぶ。こうした特性を踏まえ、生活科の学びにおいては、**児童が身体を通じた体験をすることで、身近な生活と自分との関わりを実感し、対象と自分との関係性に気付くことが大切**である。この気付きの質を高める観点から、体験活動や表現活動を通して学習対象との関わりを深める中で、好奇心や探究心を育み、豊かな感性を養い、自立し生活を豊かにすることが期待されている。

<b.身体性を重視した直接体験の重要性>

- デジタル技術の進展により、ともすれば仮想空間における活動ばかりが増えてしまいがちな中において、**身近な人々、社会及び自然との関わりをリアルに認識することが、これまで以上に求められている**。そのためにも生活科では直接体験を通じて身体で対象と関わることを期待されているが、現状では、学校内外でこうした直接体験の機会が減少している（国立教育政策研究所「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査」、（独）国立青少年教育機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（令和4年度調査）」）。

<c.言葉や絵、動作など多様な表現に基づく認識の重要性>

- インターネットやSNSなどを通じて得られるバーチャルな情報が溢れている中で、児童が能動的に**身近な人々、社会及び自然との関わりを深めるとともに、発達に相応しい表現活動によって対象を認識し、自らの変容や成長について実感することがこれまで以上に重要である**。このため、生活科では、直接体験に加えて、言葉や絵、動作など多様な方法で表現し、気付きの質を高める（「深い学び」を実現する）活動の重要性が高まっている（日本生活科・総合的学習教育学会「生活科で育った学力についての調査研究（令和6年科研費）」）。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性③

(3) 改善の方向性 補足イメージ①②③参照

ア. 生活科の「本質的意義」の再定義

- AIで代替できない「実感を伴う知」を育み、「深い学び」を実装する人間的な学び方を体得する教科として、生活科の本質的意義を以下の4つで整理し、それらを踏まえて教育課程を改善する。

①身体性

身体を通して対象と関わることで、見る、聞く、触れるなどの諸感覚を通して対象を捉えるとともに、直接的な関わりによって実感的な認識が得られるようにする。仮想空間における情報の受容ではない、「身体で身近な生活を捉える」体験や活動を、自分の外に広がる世界との確かな接点をもつ出発点とする。

②対象と自分との関わり

見る、聞く、触れるといった働きかけによって、身近な物事の変化を実感する中で、「自分が動く対象となる身近な物事が変わる」という経験が、好奇心や探究心を生み、身近な人々、社会及び自然のよさや特徴などに気付き、それらを大切に思いながら自分との関わりを意識することに繋げる。

③他者と自分との関わり

他者との関わりを通して、互いの力を出し合う経験を重ねる中で、相手の思いに気付き、受け止め、尊重する態度を育むとともに、他者と共に生活する自分の存在を明らかにする。さらに、関わる対象を身近な人から地域・社会へと広げる。

④自己認識

生活科の学びでは、活動を通して「やってみたい」という気持ちが生まれ、自分で考え行動する主体性や自立性を育む。「自分はこう感じる・考える」学習活動を繰り返すとともに、自らの変化や成長に目を向けることで、自分自身のよさや可能性に気付く機会を提供する。

イ. 目標及び見方・考え方の在り方

- 目標の柱書については、現行の記載にある児童が行う「具体的な活動や体験」を明確にするため、本質的意義として整理した「身体性」の観点を踏まえて整理する。

(3) 改善の方向性

○AIで代替できない「実感を伴う知」を育み、「深い学び」を実装する人間的な学び方を体得する教科

①身体性

仮想空間における情報の受容ではない、「身体で身近な生活を捉える」体験や活動を出発点とする

※なお、具体的な内容の改善については、生活科の本質的な意義を踏まえ、必要に応じて見直しを行うことを検討する。

2. 目標及び見方・考え方の在り方①

(1) 目標の在り方

補足イメージ③参照

- 柱書については、1. (3) アで整理した本質的意義を踏まえ、現行の「具体的な活動や体験」を「身体性を伴う体験と多様な表現活動」と改める。このことにより、体験を通した内化と、言葉などの多様な表現活動による外化とが往還することを明確にする。こうした学習過程を通して、身体性を伴う実感的な理解と表現による認識の高まりを繰り返しながら、抽象的な理解の足掛かりとしていく低学年の特性を活かした学びの充実を目指す。
- 「知識及び技能」については、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気付くことに加え、他者との関わりを通して、新たに対象の特徴やよさに気付いたり個別の気付きが関連付けられたりすることで「深い学び」に向かうなど、身近な生活と自分との関わりに気付くことを目標として位置付ける。

例：子供は、植物に水をやりながらも、水をやると植物は成長するという関係には気付いていないこともある。しかし、植物を育てていることを言葉や絵などで表現することで、「植物の成長には水が必要である」ことを自覚する。さらに、「成長には水などが必要である」という植物と自分との共通点を関連付けることで、植物の成長には必要な条件があることに気付きを深めていく。

(1) 目標の在り方

「具体的な活動や体験」



「身体性を伴う体験と
多様な表現活動」

○体験を通した内化と、多様な表現活動による外化とが往還することを明確にする

5. 学習・指導・評価の改善充実の在り方①

(1) 生活科固有の課題への対応

ア. 身体性を伴う体験活動の充実

- デジタル技術の進展により、ともすれば仮想空間における活動ばかりが増えてしまいがちな中において、実感をもちながら行う身体性を伴う体験活動は、学習対象や学習活動への興味・関心を広げたり、これまで気付かなかった事柄や新たな対象との出会いを生み出したりするものであり、より一層その必要性が高まっている。また、その中で生まれる驚きや感動は、次の活動への思いや願いを高めるとともに、継続的に関わろうとする意欲につながる効果も期待できる。
- また、学習対象に繰り返し関わる中で、生活上必要な習慣や技能が身に付く。例えば、植物の栽培や動物の飼育、公共施設の利用、地域の人々との交流などの体験を通して、適切な行動の仕方や基本的な技能を実感を伴って習得することができる。こうした習慣や技能は、日常生活の中で繰り返し活用されることで確かなものとなる。
- このようなことを踏まえ、身体性を伴う体験活動をより一層充実する。その際、以下の点について留意が必要である。
 - 体験できる時間や場を十分に確保すること
 - 思いや願いをもって対象へ働きかけられるようにすること
 - 体験と表現の往還によって気付きの質を高めること
 - 試す・比べる・工夫するなどの学習活動を位置付けること
 - 一人で没頭したり、友達や大人と一緒に活動したりするよさを踏まえること
 - 日常と非日常のそれぞれの体験のよさを踏まえること
- これらを具体的に実現するために、指導計画に位置付けられるよう実践事例等を示すことを検討する。

イ. 動物飼育の在り方

参考資料 1、2 参照

(1) 生活科固有の課題への対応

○デジタル技術の進展により、ともすれば仮想空間における活動ばかりが増えてしまいがちな中において、**実感をもちながら行う身体性を伴う体験活動は、より一層その必要性が高まっている**

- また、学校における適切な管理を促すため、好事例を共有するとともに、教師用手引きの見直しを行う。
- 併せて、飼育する動物は現行と同様に、魚や昆虫など、哺乳類や鳥類に限らない旨を明確化する。

○教職員が校務において利活用

例えば…

生活科の授業の構想段階のアイデア出し等に活用することが可能



校務の効率化
授業の質の向上等につなげる

○教職員自身が、慣れ親しみ、
利便性や懸念点を知っておく

○生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

て、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



3. 学校現場において押さえておくべきポイント

- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

教職員が校務で
利活用する場面



児童生徒が
学習活動で
利活用する場面



教育委員会が
押さえておくべきポイント

- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる必要がある
あり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

適正利用
確保
シー

- 公平性の確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任

いて活用可能な研修教材 等

リーディングDXスクール事業【AIパイロット校】

和歌山市立西脇中学校（和歌山県）【指定校】

<校務利用> ① Chat GPTで、魅力的な授業のアイデアを得る

授業を考えているとき「生徒をもっと活動させたいな」「同じような活動ばかりで、マンネリ化してきたな」と悩んでいた。

そこで、図のようなプロンプトを入力することで、アイデアを出してもらうことができました。このプロンプトでは、**教科、対象学年、目標、時間**を設定できるようにしている。

1回の指示で理想通りの結果を出力してくれることはないが、プログラミングとは異なり、話し言葉でAIに指示が出せる。この特徴を生かして、出力結果を見て、パツとしない場合は「他の案を提案してください。」と、しつこく聞き直すことができる。

この案はあくまでも「たたき台」として活用するもので、目の前の生徒の様子に合わせてアレンジしていくことで、自分では思いつかなかった新しい学習活動を作ることができます。

#命令書:

あなたは優秀な教育者です。

以下の制約条件と入力文をもとに、生徒が楽しんで取り組める学習活動を提案してください。

#制約条件:

- ・活動案を2つ提案すること
- ・魅力的なタイトルをつけること
- ・生徒たちが目標を達成できる活動にすること
- ・「導入」「展開」「まとめ」の構成で授業を構成すること

#入力文:

- ・対象: 中学2年生
- ・目標: 数学の連立方程式の導入授業で使える
- ・時間: 45分

活動案1: 「ミステリー解決! 連立方程式チャレンジ」

【導入】10分

1. 生徒たちに「連立方程式」の基本概念とその重要性を説明する。
2. 「連立方程式が実際の生活や仕事でどのように役立つのか」について、具体的な例を挙げる。

【展開】25分

1. 生徒たちに実際の連立方程式の問題を出題し、それを解くための手順を説明する。
2. 生徒たちに「ミステリー解決! 連立方程式チャレンジ」という活動を行ってもらい、これは、連立方程式を使って仮想的な事件や問題を解決するもので、生徒たちが連立方程式の理解を深めるためのものです。

【まとめ】10分

1. 活動の結果を共有し、生徒たちの解答と解法を検討する。
2. 連立方程式の重要性とその応用について再度強調する。

活動案2: 「連立方程式エスケープゲーム」

【導入】10分

1. 「連立方程式」についての基本的な知識を復習する。

プロンプト例

出力文例

5. 学習・指導・評価の改善充実の在り方②

ウ. 外部人材・地域との連携

- 地域の教育資源を活用した学習活動が展開される中で、外部人材や地域との連携強化をより一層図る必要があるため、教職員の過度な負担が生じないよう配慮しつつ、以下の取組を促す。

① 継続的な関係としての連携の構築

外部人材や地域との連携を、単発としての体験ではなく、1年間を見通した学習の中に位置付け、繰り返し関わる関係として構築する。例えば、年間指導計画において、同一の人材・施設との複数回の関わりを位置付け、児童

○ICT活用について

- ・ **身体性を伴う体験をより一層豊かにしていくものであり、直接体験を代替するものではない**
- ・ **生活科の本質的意義をより深化させ、体験・認識・表現の質を高める**

(2) ICT活用について

補足イメージ⑧⑨参照

- 生活科におけるICT活用は、**身体性を伴う体験をより一層豊かにしていくものであり、直接体験を代替するものではないことを前提とした上で、ICT活用を、生活科の本質的意義をより深化させ、体験・認識・表現の質を高めるための補助・促進する手段と位置付ける。**

① 体験の質を高める

諸感覚を働かせながら撮影・記録を何度も体験し、拡大したり様々な視点で観察したりしつつ、改めて対象との関わりを深めようとするとともに、時間・空間を超えて体験することで、体験の質を高める。

② 認識の質を高める

画像や動画の視聴によって、対象を比較したり捉え直したりし、それらを言語化し、対話によって考えを巡らすとともに、自分の変容や成長に着目したり、振り返ったりすることで、認識の質を高める。

③ 表現の質を高める

音声や画像で簡便にもしくは精緻に表現したり、思いや願いをもって交流したりすることで、表現の質を高める。

- また、幼児教育から総合的な学習の時間へと連なる学習の質の高まりを促進する学習基盤として位置付ける。

それでは、協議本番です！

これまでの説明を踏まえ、
御協議ください

生活科の特性に応じたAI活用

- ①AI活用の実践事例やアイデア
- ②AI活用に向けた課題や気になること
- ③効果的なICT活用の実践事例
(いずれかの項目でもOK)

A～Fのグループで御協議ください

ワークシートはメモ程度で。
みんなで協議を



徳島県小・中学校教育課程研究集会

【部会Ⅱにおける協議題について】

課 題

当日の協議題 生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現

課題は事前提出の必要はありません。

部会Ⅱでは、各教科の特性に応じた生成AIの活用に焦点を当て、活発な情報交換とすることを目的として、事前協議を行います。

1 事前整理の内容

- ① AIを活用した授業実践例・アイデア
各教科の特性に応じたAI活用の実践事例、またアイデア
- ② 活用に向けた課題や気になること
これまでの実践で気付いた課題や、今後の活用を想定している点

2 当日の持参物・連絡事項

- ・ 説明資料の持参について（任意）
協議の際、説明の助けとなる資料がある場合は、必要に応じて持参してください。その場合、著作権等への留意に加え、AI作成時のハルシニ（事実確認）に伴う事実確認を確実にし、事前に管理職員の承認をお願いします。
- ・ PCの持ち込みとWi-Fiについて
教員用端末（所属のセキュリティポリシーを遵守すること）を持参してください。会場内では研修用のWi-Fi環境を利用できます。

グループ協議ワークシート

グループ

①AI活用の実践事例・アイデア

②AI活用に向けた課題や気になること

グループ協議ワークシート

グループ

③効果的なICT活用の実践事例

4. 内容の改善の在り方①

(1) 内容の充実について 補足イメージ④⑤⑥⑦参照

ア. 幼児教育と小学校教育との接続

- 各小学校において以下の取組が進むよう必要な見直しを行うとともに、過度な負担なく地域の実情に応じた取組が可能となるよう、学校現場がそのまま活用できるような多様なモデルを国として示しつつ、それらに留まらない更に多様で豊かな実践を支援する。

① 架け橋期のカリキュラムとスタートカリキュラムの関係性の見直し

- ・スタートカリキュラムは各学校で作成することを求める一方で、架け橋期のカリキュラムは全ての学校で作成することを求めていることから、両者の関係性が分かりにくくなっている。そのため、**架け橋期のカリキュラムは、幼児教育施設における5歳児のカリキュラムと小学校における1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）の総称として位置付ける**など、概念を整理する。このことにより、教育の連続性・一貫性の確保につなげる。

② スタートカリキュラムの理解・運用の促進

- ・スタートカリキュラムの対象とする時期は学校や児童の実態に応じて柔軟に設定可能であることを明確化し、様々な実施形態を例示することで、その理念や指導の工夫を意識したスタートカリキュラムを編成しやすくする。
- ・合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫の具体的事例、スタートカリキュラムを編成する視点を示し、実践のイメージを共有する。
- ・質の高いスタートカリキュラムの授業や生活場面を動画等で発信し、研修に活用する。

③ 学校全体で取り組む体制づくり・外部連携の充実

- ・管理職の理解を深め、**校内研修や校内での接続を推進する担当者を校務分掌に位置付けたり、架け橋期のコーディネーターを活用**したりするなど、学校全体で幼児教育との接続を推進する体制を整える。
- ・合同研修や保育・授業参観など、園と小学校が相互に学び合う機会を充実する。
- ・スタートカリキュラムの編成に当たっては、上記の国のモデルを参考にしつつ、幼児教育で育まれた資質・能力について、幼児教育施設と小学校の関係者とが対話をするための資料（「対話のための資料」）を活用しながら、対話を通じて互いの教育への共通理解を図り、幼児教育と小学校教育との学びのつながりを意識した実践の改善を図る。

○ 架け橋期のカリキュラム

5歳児のカリキュラムと小学校における1年生のカリキュラム（スタートカリキュラム）の総称として位置付ける

○ 体制づくり・外部連携

- ・ 接続を推進する担当者を校務分掌に位置付け
- ・ 架け橋期のコーディネーターを活用



カリキュラムがつながる

カリキュラムがつながることで、
「連携」から、人が変わっても続く「接続」へ。

先生がつながる



子供がつながる



スタートカリキュラム

スタートカリキュラムとは

小学校へ入学した子供が、園での遊びや生活を通した学びや育ちを基礎として、子供たちが主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

幼児期の遊びの中で育まれた「やってみたい」という学びの芽を、小学校では自覚的な学びへと発展させていくことが大切です。



キーワードは「安心」「成長」「自立」

安心

・園での生活に近い活動を取り入れるので、安心して学習に取り組むことができる。

・分かりやすく学びやすい環境を構成することで、安心して学校生活を送ることができる。

成長

・幼児期の経験を小学校の学習につなぐことで、自分の持っている力を発揮できる。

・先生や友達に認められることで、自信や意欲が生まれる。

自立

・自分で考え、判断し行動できるようになり、自立につながる。

・夢や希望をもち、前向きに生活していくことができる。

合科的・関連的な指導の工夫 (生活科を中心に)

単元配列表の作成

幼児期の遊びを通した総合的な学びを生かし、教科等でのそれぞれの学びを相互につなげ、関連付けすることが大切です。
また、単元配列表をもとに、学習類型等を取り入れながら、カリキュラムを作成していくこともできます。

かん	がくしゅう	せい	かい	つ	い
1	ちゃんしだい	い	い	い	い
2	な	あ	い	い	い
3	く	ん	い	い	い
4	ちゃんしだい	い	い	い	い

松茂町の学習類型

○のんびりタイム(朝の自由遊び)

始業前に友達とゆったり関わる。

○なかよしタイム

園で親しんできた遊びや交流活動で人間関係を築く。



(出典)文部科学省「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」(平成30年)

○チャレンジタイム

子供の思いや願いを生かした、合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習を行う。



○ぐんぐんタイム

児童の思考の流れを意識しながら進める教科等を中心とした学習を行う。



地域・家庭とつながる



幼保・小・中連携推進事業 「学びのかけ橋」プロジェクト

幼保小 連携・接続ガイドブック



徳島県教育委員会では、令和6年度から2年間、松茂町を指定地域とし、幼保・小・中連携推進事業「学びのかけ橋」プロジェクトを実施しました。
本プロジェクトでは、子供の学びや発達の連続性を保障するため、設置主体の垣根を超えた体制の構築や、園と学校の先生が互いの教育を理解し合う相互参観や合同協議等を行いました。また、これらのプロセスを経て、幼児期の遊びを通した学びが小学校の各教科等の学習に円滑につながるよう、地域の実情に即した架け橋期的カリキュラムを協働して作成しました。

本ガイドブックは、松茂町の2年間にわたる具体的な取組をもとに、幼保小の連携・接続を進める際のポイントをまとめたものです。各市町村や各園・校での実態に応じて、適切に御活用いただければ幸いです。

令和8年3月
徳島県教育委員会

幼保小の架け橋プログラム促進のための講師派遣事業



架け橋期のコーディネーター 講師派遣の御案内

架け橋期とは

5歳児から小学校1年生の2年を「架け橋期」と言います。

幼児教育と小学校教育は、他の学校段階間の接続に比べて様々な違いがあり、円滑な接続を図ることは容易ではないため、この期間を「架け橋期」と焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要です。

----- さまざまな研修会で 御活用ください -----

- 校内研修
- 園内研修
- 校長会
- 園長会
- 教頭会
- 教育委員会主催研修会
- 教育研究会主催研修会 等

架け橋期における 教育の充実に関すること



幼児期に育まれた資質・能力が、小学校の各教科等に円滑に接続するよう、教育内容や指導方法の工夫について支援します。

架け橋期の カリキュラム作成等に関すること



幼保小が協働し、共通の視点を持って架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫を行うことにより、PDCAサイクルが確立するようサポートします。

その他 幼保小の連携・接続に関すること



その他、保育参観・授業参観、合同研修会の実施に関すること、特別な支援を必要とする子供に関すること等、御相談に応じます。

徳島県保育・
幼児教育センター
(徳島県教育委員会生涯教育課内)

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地

088-621-3196

Email: gimukyoku_1@g.tokushima-ec.ed.jp

Webサイト: <https://youjikyoku.tokushima-ec.ed.jp>

架け橋期の教育が充実すれば いいことたくさん♪

架け橋期の教育が充実し、「幼保小の架け橋プログラム」を推進することで得られた効果について、モデル地域における調査研究や実践報告から、明らかになっています。



登校渋りの児童の減少



子供たちが主体的に



友達と協働的に関わる子に

よくある質問

派遣先の対象は？

派遣先は、公立小学校、公立幼稚園及び、市町村教育委員会等による研修会です。校内研修や教育研究会での研修会も対象です。その他の研修会であっても、御相談ください。

派遣時間はどのくらいですか？

1～2時間程度です。依頼内容によっては、延長も可能ですので、御相談ください。

費用はかかりますか？

派遣費用、交通費等は必要ありません。

講師を選ぶことはできますか？

講師の人は、センターが行うことを基本としています。

講師派遣までの流れ

- 1 保育・幼児教育センターに、派遣希望の旨を電話、または、メールで連絡する。
- 2 派遣希望の日時や派遣内容について、担当と相談する。
- 3 保育・幼児教育センターのWebサイトの「アドバイザー派遣」から「派遣依頼書」(別紙様式1)をダウンロードし、必要事項を記入して、メールに添付し、送付する。
(「保育・幼児教育アドバイザー派遣依頼書」と書かれたものになります)
- 4 派遣決定通知が到着する。
(「保育・幼児教育アドバイザー派遣決定通知」と書かれたものになります)
- 5 必要があれば電話等で、講師と直接、打ち合わせをする。
- 6 当日訪問
- 7 派遣終了後、保育・幼児教育センターのWebサイトの「アドバイザー派遣」から「指導後アンケート」をダウンロードし、必要事項を記入して、メールに添付し、送付する。
(「保育・幼児教育アドバイザー派遣実施終了アンケート」と書かれたものになります)

※画像はAIによって生成されたものです。

リフレクション

本日の説明、協議を、
今後の生活科の授業に
どう生かすことができますか。

お隣の方と、お話してください。



引用文献・参考文献

○文部科学省（2024.12）「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要版】」

https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_002.pdf

○文部科学省教育課程部会生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ資料1（2026.7）「生活、総合的な学習・探究の時間WG取りまとめ（案）①生活科」https://www.mext.go.jp/content/20260703-mxt_kyoiku01-000050836_3.pdf

○文部科学省リーディングDXスクール「指定校実践事例・動画」
https://leadingdxschool.mext.go.jp/files/achieve_r6/ai/C130210000100_A1.pdf